

## 「物流はサービス業」 ～人と人とのつながりを大事に106年～

### 丸共通運株式会社 会社概要

本社所在地：愛知県碧南市浜田町4丁目34番地  
事業内容：一般貨物自動車運送事業、倉庫業、  
貨物運送取扱事業、荷役及び梱包  
作業の請負事業  
創業年：1914年  
売上高：4,461百万円  
従業員数：354名



### ●インタビューー

名古屋中小企業投資育成株式会社  
常務取締役 五十嵐 健二

【五十嵐】まずは新本社ご移転おめでとうございます。

【鈴木】ありがとうございます。

【五十嵐】1914年に創業し、今年で創業106年を迎えられました。鈴木会長は碧南市財界の顔として商工会議所の会頭も務めておられます。これまでどのように事業発展されてきたのか、その歴史についてお聞かせください。

【鈴木】1914年に大浜町にて大浜港駅（現

### 丸共通運株式会社

代表取締役社長 鈴木 朝生 氏



### 鈴木 朝生 氏 プロフィール

1975年 愛知県生まれ  
1997年 大手自動車メーカー入社  
2004年 当社入社  
2012年 代表取締役社長就任  
2019年「稼ぐ！トラックドライバー」執筆

在碧南駅)が当時実家の近くに新設されました。誰かが荷物を運ばなくてはならないという中で「共同合資会社」を設立し、同駅発着の貨物の取り扱いを開始したのが始まりです。1935年に当時主流であった大八車を廃してトラックを初めて導入し近代化を図りました。戦争で事業を中断していた時期もございましたが、1951年に営業を再開し現在に至ります。



《創業当時の写真》

### 《3本柱の事業発展》

【五十嵐】創業当時は鉄道貨物の運搬を担っていたのです。現在の事業内容は当時とどう変化したのでしょうか。

【鈴木】現在の主な事業内容は、①自動車部品の輸送・物流管理、②食品（液糖・コンスターチ）輸送、③飼料の輸送・物流管理の3本柱です。飼料、食品そして自動車部品の順番に事業拡大してきました。

【五十嵐】3本柱の事業展開について紐解いていきたいと思っています。飼料、食品事業開始のきっかけとして何があったのでしょうか。

【鈴木】工業化に伴い、1983年に衣浦港で埋立地が増設されました。当社の事業所が手狭になっていたこともあり、いち早く土地取得に手を挙げました。同様に地元の飼料、食品メーカーも工業化が進み衣浦港に多く進出しました。

【五十嵐】飼料、食品メーカーが衣浦港を選んだ理由があるのでしょうか。

【鈴木】飼料と液糖に共通するのは原料にとりもろこしなどの穀類があることです。衣浦港は

水深が深く大型船舶が入港可能なため、大型船を利用するともろこし輸入港に適しているという特徴があります。そのため衣浦港は重要港湾として指定されており、特にともろこしは名古屋港と連携した輸入拠点として役割を果たしています。また中部地区で製造することで日本全国各地へ製品配送がしやすい特徴もあり衣浦港に飼料、食品メーカーの工場が多く進出したと考えられます。

【五十嵐】地元企業の工業化や、大手企業の進出など、衣浦港の発展と同時期に御社も衣浦港に進出したのです。

【鈴木】碧南市は当時から三州瓦、植木鉢などの焼物が有名でした。地元企業を使おうという方針はあったものの、専用車両が必要となる飼料、液糖の運搬を行っている運送会社は少なかったと思います。そこで当社は、専用車両をいち早く導入し、地元企業のニーズに応えてきました。現在、飼料輸送に使用される専用車両は58台、液糖輸送に使用されるタンクローリーは24台保有しています。



《飼料輸送専用トラック》



《液糖輸送専用トラック》

**【五十嵐】**いち早く先行投資されたのが現在でも繋がっているんですね。それではもう一つの事業柱である自動車部品についてお伺いします。本社のある碧南市は自動車産業が盛んですよね。

**【鈴木】**1978年に大手自動車メーカーの衣浦工場ができ、1980年代にその協力会社などの工場建設が進みました。元々自動車専門の運送会社はあったのですが地元の衣浦で対応してくれる運送会社が少なかったため当社に打診が来りました。

**【五十嵐】**それが1983年のトラック用地6,600㎡の取得や、2002年の無人自動ラック倉庫設置へと繋がっていくのでしょうか。

**【鈴木】**実はどちらも自動車部門とは関係なく手狭になり増設したものになります。ですが、もし設備投資していなかったら自動車業界からのお話はなかったかもしれません。

**【五十嵐】**そうでしたか。タイムリーな設備投資を積極的にされてきたことが結果としていい方向に発展されたんですね。

**【鈴木】**そうですね。倉庫を増設したことで輸送だけでなく物流管理もできるようになりました。荷主企業から荷受企業への直接輸送だ

けでなく、「荷主企業から一旦預かり、倉庫で仕分け、複数企業の製品を混載し輸送すること」、「中部地区以外の荷主企業から一括で預かり、タイムリーに近隣へ輸送すること」が可能になりました。さらに物流業務強化のため2017年5月に上矢田物流センターを新設しました。



《上矢田物流センター》

## 《事業発展の秘訣》

**【五十嵐】**3本柱への発展に共通しているのが、環境変化に適応してこられたことだと想像します。秘訣は何があったのでしょうか。

**【鈴木】**やはり地元企業の発展とともにニーズに応え続けてきたことだと思います。物流会社は製造されるモノがあって初めて仕事ができるので自らモノを生み出しているわけではありません。製造業の発展や地域の発展あっての自社の発展です。この想いは常に社員に伝えています。

**【五十嵐】**御社の企業理念である「お客様第一」「地域発展への貢献」へと繋がってきますね。

**【鈴木】**企業理念として掲げ、使命としています。こういった環境の中で仕事をしていくうちに会社がお客様を大事にし、お客様のため、地域のために働くという意識が共有されていったのでしょうか。

社員には「物流はサービス業」という言葉のことあるごとに伝えています。モノを運ぶことが目的ではなく、モノを運ぶというサービスを通じて、お客様に喜んでもらい、そして世の中を豊かにすること、それが物流事業の目指す姿であり、使命でもあるのです。その特性が表れたのが東日本大震災後だったと思います。震災後も当社のドライバーはモノを愚直に運び続けました。混乱の中でも、お客様のことを考え、モノを運ぶという重要性を理解し行動に移しました。届け先のお客様には「さすがに無理だと思ったよ。でも届けてくれた。ありがとう。」と言われました。

## 《著書「稼ぐ!トラックドライバー」の経緯》

**【五十嵐】**「物流はサービス業」というお言葉は社長が出版された著書にも記載されてましたよね。出版の経緯を教えてくださいませんか。

**【鈴木】**ドライバーの人手不足解消のために何かできることはないかと考えていました。運送という仕事の重要性を広く世間に知ってもらい、働いているドライバーの皆さんに誇りを持ってもらう、それが課題解決に繋がらないかと思い、出版の話をお受けしました。



《社長著書「稼ぐ!トラックドライバー」》

**【五十嵐】**著書の中でもドライバーの多種多様な入社経歴、仕事のやりがいなど具体的な体験談が印象的でした。御社のドライバーに共通している部分は何かあるのでしょうか。

**【鈴木】**今まで新卒入社のドライバーはほぼおらず、前職で様々な経験をされてきた方がほとんどです。本の中ではいろいろな経験を経て最終的にドライバーという職種を選んだ方のエピソードを紹介しています。共通点として、入社当時から働く目的がはっきりしている人が多い気がします。それはドライバーという職種が働いた分に応じて正当な報酬を受け取れるからではないかと感じます。また企業理念に基づき積極的に仕事を引き受けてくれるドライバーも多いです。

## 《丸共通運の今後》

**【五十嵐】**現在(取材5月時点)、コロナ禍により経済活動に大きな影響が出ております。

**【鈴木】**当社でも多大な影響が出ております。自動車部品は生産が滞れば配送も減りますし、液糖はイベントや外での飲食が無くなると飲料の需要が落ち込み生産量が減ります。これに対し飼料は人間が食べる量が減らない限りエサも必要になるので今のところ影響は小さいですが、中長期的には経済活動と連動していますので、いずれ輸送量は減っていきます。今は耐えしのぐ時期だと思っております。

**【五十嵐】**業種によってかなり状況は違いますね。運送業界について中長期的にどのように見ておられますか。

**【鈴木】**日本全体の人口は高齢化、逓減傾向にあり、それに伴いドライバーの人手不足の課題もあります。こうなると物流自体のあり方を変えていかないといけないのは間違いないです。しかし完全に無人輸送が実現するのは相当先だと考えられます。

まず第1ステップとして半自動運転で運転席に人はいるが、運転が楽になり労働時間が短縮できたり、労働環境が良くなったりするのではないかと考えています。完全自動化となる未来も考えられますが、無人でトラックを動かしてもお客様とのやり取り、荷役・積卸作業は人が必須です。物流のあり方、形の変化とともに人の役割や必要性もいま一度見直されるのではないのでしょうか。

**【五十嵐】**御社の展望、具体的な方策を教えてください。

**【鈴木】**これから次のステップとして第4の柱を考えていかなければいけません。創業以来守ってきた地元産業への貢献を軸とし、時代の変化に合わせて新しいことを取り入れることを経営方針としても掲げています。

そして社内体制として労働環境の変化、社会の変化に伴い、評価制度を再整備しています。ドライバーとは時代を先取りする職種です。成果に応じて正当な報酬を受け取れるからこそ働くことに前向きになれる環境を整えなければいけません。今は働き方改革で労働環境が変わり昔のように「時間で稼ぐ」、「身体で稼ぐ」ということができなくなります。年収ベースで従来と遜色ないようにベースを厚くし、この「成果主義」に加えて「お客様の声、サービス評価、品質評価」等を取り入れる予定です。

**【五十嵐】**ありがとうございました。今後もさらに発展されることを祈念しています。



《新本社》